

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2014/8/1~2014/11/30) 資料 4-1

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	B型肝炎、C型肝炎、E型肝炎、A型肝炎、HIV感染	第62回日本輸血・細胞治療学会総会 2014.5.15~17	日本赤十字社における感染症安全対策について。対策の中心はスクリーニング検査で、主な輸血感染症に対する抗原抗体検査、核酸増幅検査(NAT)を実施し、その感度を段階的にあげてきた。20プールNATを導入した2004年から9年間で、輸血後肝炎症例は、B型肝炎9例、C型肝炎6例、E型肝炎11例、A型肝炎1例であった。2013年にHIV感染例が10年ぶりに確認された。
2	C型肝炎	Ann Intern Med. 160(2014)293-300	米国におけるC型肝炎の報告。2003~2010年のNational Health and Nutrition Examination Survey(NHANES)の参加者30,074例を対象に、慢性C型肝炎ウイルス(HCV)感染症の有病率を推定した。HCV-RNA陽性例は1.0%(273例)であり、これは米国の入院していない一般市民の270万人が感染していることに相当する。慢性HCV感染のリスク因子は、注射薬物を含む違法薬物の使用、1992年以前の輸血歴であった。
3	C型肝炎	HPS Weekly Report Vol.48 2014	スコットランドにおけるC型肝炎の報告。2013年1~12月、スコットランドにおいてC型肝炎抗体陽性の新規症例1,903例が確認された。2013年12月31日時点、C型肝炎抗体陽性症例は35,474例でこのうち55%(19,644例)が注射薬物を使用していた。また、16%(5,522例)の死亡例が確認されている。
4	C型肝炎	ProMED-mail 20140306.2317087	米国保健当局はミネソタ州におけるヘロインの使用率の増加がC型肝炎患者の増加に関連する可能性を疑っている。2012年、ミネソタ在住の2例がC型肝炎と診断されたが、実際の感染者数はさらに多く、2013年5月、当局は州全体で約39,000例が感染していると推定した。
5	C型肝炎	第30回日本小児肝臓研究会 2013.7.13,14	日本における小児C型肝炎の報告。全国の小児C型肝炎診療経験のある11施設から診療録をもとに、小児C型肝炎182例(男児87例、女児95例)を対象に後方視的に調査した。母子感染143例、輸血関連32例、セロタイプは1型と2型がほぼ同じ割合であった。自然治癒が13例、無症候性キャリア55例、慢性肝炎44例、治療フォロー中64例、肝細胞がん1例であった。
6	E型肝炎	Euro Surveill. 19(2014)	ドイツにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)に関する報告。2013年7月4日ドイツにおいて血小板輸血を受けた患者で、HEV IgM、IgG抗体陽性、HEV RNAが検出がされたため、遡及調査を実施したところ、7月1日に無症候性供血者から採血された7.056IU HEV RNAを含む製剤が輸血されていた。リアルタイムPT-PCRの検出限界に近い低ウイルス濃度でも輸血によるHEV感染が成立することが示された。
7	E型肝炎	<a href="http://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/344421/July_2014_EI_Summary.pdf">http://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/344421/July_2014_EI_Summary.pdf</a>	英国におけるE型肝炎ウイルス(HEV)に関する報告。2013年、Southeast Englandの225,000の供血に対し、遡及的にHEV genotype3(GT3)のRNAスクリーニングを行った。79例の供血者は、HEV GT3ウイルス血症であることが判明したが、ほとんどが供血時の血清反応は陰性であった。これらの供血は129の血液成分に分けられ、うち62は輸血され、43例の受血者のうち18例(42%)のHEV感染が確認された。
8	E型肝炎	Lancet. 2014 Jul 26. [Epub ahead of print]	英国におけるE型肝炎ウイルス(HEV)に関する感染の報告。2012年10月8日~2013年9月30日の間、イングランド南東部で採取した225,000供血血液について、後方視的にHEV-RNAをスクリーニングした結果、79例(0.04%)の供血者がHEVジェノタイプ3のウイルス血症であった。79供血血液から129製剤が製造され、うち62製剤は感染が判明する前に輸血されていた。これらの製剤の受血者43例の追跡調査の結果、18例に感染が認められた。著者らは、これらの結果はイングランドにおいてHEVジェノタイプ3感染が広がっていることを示唆すると考えている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
9	E型肝炎	肝臓 55(2014)405-408	三重県における4型E型肝炎ウイルス(HEV)愛知静岡株の報告。2013年10月、三重県において全身倦怠感を発現した患者が、急性E型肝炎と診断された。患者から検出されたHEV-RNAの遺伝子配列解析を行ったところ4型愛知静岡株と100%のbootstrap値でクラスターを形成した。このクラスターに属する株との塩基配列の相同性は97.8%以上であった。患者に野生動物喫食歴はなく、発症3ヶ月以内に愛知県、岐阜県、静岡県を訪れていないため、三重県内での感染が疑われる。著者らは、感染源、感染経路は不明であるが、4型愛知静岡株が野生動物以外にも広がり、その感染源が三重県にまで及んでいることは重大で、さらなる症例の蓄積による情報収集が必要と考えている。
10	HIV感染	AIDS. 28(2014)1539-1541	HIV-1感染赤血球製剤を輸血された患者に対し、輸血約24時間後から抗レトロウイルス薬治療(ART)による曝露後予防を開始した。輸血後約24時間後の患者の血液検査でHIV抗体陽性、血漿中のHIV-1 RNAは陰性であった。ウエスタンブロットのバンドパターンは、供血者と患者サンプルで一致していた。患者は13週間のARTを受け、その8ヶ月後にはすべてのHIV検査で陰性であった。著者らは、これらの所見は曝露後予防によりHIV-1感染の防止に成功したことが示唆されたと報告している。
11	HIV感染	transfusion. 54(2014)2361-2362	日本における20プール核酸増幅検査(NAT)陰性血液の輸血によるHIV感染事例の報告。2013年11月、複数回献血者である40歳代男性のHIV-1感染が確認された。遡及調査ガイドラインに従い個別NATで検査したところ、2013年2月の保管検体からHIV-1 RNAを検出した。当該献血者から赤血球製剤と新鮮凍結血漿が製造され、新鮮凍結血漿を投与された60歳代の男性のHIV-1感染が確認された。輸血感染を引き起こした血液のHIV-1ウイルス量を推定したところ、NAT検出限界以下(約10コピー/ml)以下であり、感染初期のウイルス期に献血されたと考えられる。
12	HIV感染、B型肝炎、C型肝炎	Sex Transm Infect. 89(2014)iii41-44	2010年のイランにおける注射薬物使用者におけるHIV、HBV、HCV感染率の報告。イランのTehran、Mashhad、Shirazの注射薬物使用男性(MIDUs)226例とその女性パートナー(注射薬物使用女性(FIDUPs)42例及び非使用女性(FNIDUPs)184例)を対象にHIV、HBV、HCV感染について調査した結果、HIV感染率は、MIDUsで9.4%、FIDUPsで7.7%、FNIDUPsで2.8%であった。HCV感染率は、MIDUsで38.6%、FIDUPsで36.6%、FNIDUPsで8.4%であった。HBV表面抗原保有率は、MIDUsで3.6%、FIDUPsで7.3%、FNIDUPsで1.1%であった。
13	インフルエンザ	mBio. 5(2014)e00031-14	米国におけるインフルエンザに関する報告。著者らは、インフルエンザC型ウイルスと50%の全相同性を有する新型ウイルスをオクラホマ州のブタから分離し、仮称をC/swine/Oklahoma/1334/2011(C/OK)として報告した。C/OKウイルスのデューブRNAシークエンシングにより、インフルエンザC型ウイルスとは異なるマトリクス1タンパク発現機序が葉発見され、RT-PCR及び血清学的検査によりC/OKウイルスが全米のウシの群れにも蔓延していることが確認された。In vitroでの遺伝子再集合検査により、インフルエンザC型ウイルスとC/OKウイルスは遺伝子再集合を起こすことができず生存可能な子孫を産生することができないことが示された。著者らは、C/OKウイルスがインフルエンザウイルスの新属であることが示唆されたと報告している。
14	インフルエンザ	FLUVIEW 2013-2014 Influenza Season Week 35 ending August 30, 2014	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)感染の報告。米国において2013~2014年のインフルエンザシーズンに、新規のH3N2vのヒト感染例がIowaから1例報告され、この患者はブタへの曝露があったことが確認されている。
15	インフルエンザ	ProMED-mail 20140916.2776180	米国におけるインフルエンザA(H3N2)型の報告。USDA IAV-S サーベイランスプログラムは、2013年12月以降、米国のブタにおいて、少なくとも2州における複数のH3N1を確認した。米国のブタにおいてH3N1が検出されたのは、初めてではないが、H3N1のうち2件がヒトウイルス由来の新型のヒト季節性HA遺伝子を保有しており、現在のブタH3ウイルスとは異なっていた。
16	インフルエンザ	MMWR. 63(2014)483-490	米国における2013~2014年シーズン(2013年9月29日~2014年5月17日)でのインフルエンザの報告。WHOとNational Respiratory and Enteric Virus Surveillance Systemによる308,741検体の検査の結果、53,470検体(17.3%)が陽性でそのうちA型が46,727検体(87.4%)、B型が6,743検体(12.6%)であった。A型のうち31,353検体の亜型解析ではpH1N1が28,323検体(90.3%)、A(H3)が3,030検体(9.7%)であり、インフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)が1例検出された。
17	インフルエンザ	Jpn J Infect Dis. 67(2014)184-190	中国におけるブタ農場関係者及び一般人のインフルエンザ感染の拡大について血清免疫学的試験で評価した報告。ブタ農場関係者では一般人と比較し、インフルエンザA(H1N1)型の抗体陽性率が有意に高く、11.17%(61/546)を占めていた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
18	インフルエンザ	YOMIURI ONLINE (読売新聞) 2014/09/02	中国における鳥インフルエンザA(H5N6)型の報告。中国農業省は2014年9月1日、黒竜江省ハルビンの飼育場で死んだガチョウからH5N6型ウイルスが検出されたと発表した。8月28日に、飼育されたガチョウ約18,000羽が大量死しているのが発見され、感染のおそれのある約69,000例が殺処分された。
19	鳥インフルエンザ	BMC Infect Dis. 14(2014)	フェレットを用いた輸血による鳥インフルエンザA(H5N1)型ウイルスの伝播についての評価。H5N1ウイルスを孵化鶏卵を用いて培養後、50%卵感染量(EID50)を定めた。低用量( $1.0 \times 10^{2.6}$ EID50/mL)のウイルスを接種されたドナーフェレットからの血液を輸血されたレシピエントフェレットの2/12匹(16.67%)、高量( $1.0 \times 10^{3.6}$ EID50/mL)ドナーから輸血されたレシピエントの7/12匹(58.33%)においてウイルス血症が確認された。これらのデータから、H5N1ウイルスがフェレットにおいて輸血により伝播する可能性が示唆された。
20	鳥インフルエンザ	Euro Surveill. 19(2014) pii:20699	中国における鳥インフルエンザウイルスA(H7N9)型の報告。中国におけるH7N9は6ヶ月間の減少を示した後、2013年12月に再出現した。H7N9およびH9N2の遺伝子再集合株が中国南東部の海岸地域から他の地域に広がり、H7N9と浙江省由来株、広東省/香港由来株、ヒト由来H9N2株による3種の新しい遺伝子再集合株が、系統解析によって識別された。
21	鳥インフルエンザ	www.wpro.who.int/china/mediacentre/releases/2014/20140507/en/	中国における鳥インフルエンザA(H5N6)型の報告。四川省南充市において重度急性肺炎を患っていた男性が死亡し、H5N6核酸陽性であることが判明した。この男性は病気で死亡した家禽との接触があった。
22	鳥インフルエンザ	時事ドットコム 2014/05/07 http://www.jiji.com/jc/zc?k=201405/2014050700023	中国における鳥インフルエンザA(H5N6)型の報告。四川省南充市において重度急性肺炎を患っていた49歳男性が死亡し、H5N6ウイルスが検出された。台湾衛生当局は、H5N6の感染例および死亡例は世界初としている。死亡した患者は家禽との接触があった。患者と接触した人から異常は発見されず、現時点で人から人への感染や流行の危険性は低いと考えられている。
23	鳥インフルエンザ	Lancet Respir Med. 10(2013)771-778	台湾におけるインフルエンザA(H6N1)型の報告。2013年5月、H6N1の初めてのヒト感染例が報告された。感染者は20歳の女性であり、オセルタミビル投与により回復した。分離したウイルスは台湾疾病管理センターによりH6N1サブタイプと同定され、鳥インフルエンザH6N1型と高い相同性が確認された。本ウイルスはヘマグルチニンにおいてG228S置換があり、それによりヒトのレセプター $\alpha$ 2,6結合への親和性を高めていることが示唆された。
24	鳥インフルエンザ	WHO WER 89(2014)93-104	2013年9月24日～2014年2月17日、カンボジア、カナダ、中国、インドネシア、ベトナムにおいて鳥インフルエンザA(H5N1)型のヒト確定例15例が報告された。うち9例が死亡例であった。カナダ以外のこれらの国の家禽においてH5N1感染が確認された。ヒト-ヒト感染のエビデンスはない。
25	ウエストナイルウイルス感染	CDC. MMER Morb Mortal Wkly Rep. 63(2014)521-526	CDCによる2013年の米国におけるウエストナイルウイルス(WNV)及びアルボウイルス疾患の流行状況報告。米国3,141郡のうち830郡から2,605例のアルボウイルス疾患(デング熱を除く)が報告された。WNV疾患は2,469例で、症例の90%が7月～9月に発症し、患者年齢の中央値は55歳、58%は男性であった。1,267例(51%)が神経侵襲性疾患であり、うち119例が死亡した。
26	エボラ出血熱	WHO GAR 2 Apr 2014	西アフリカにおけるエボラ出血熱(EVD)の報告。2014年4月2日現在、臨床的にEVDに合致する症例が127例報告され、このうち35例はPCRで確定した。臨床症状が報告された場所は、Conakry(12例中4例死亡)、Guekedou(79例中57例死亡)、Macenta(23例中14例死亡)、Kissidougou(9例中5例死亡)、DabolaおよびDjingaraye(あわせて4例、3例死亡)であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
27	エボラ出血熱	WHO GAR 26 Mar 2014	ギニア政府当局は、2014年3月26日におけるエボラ出血熱のアウトブレイクにおける疑い例の合計は86例、死亡例の合計が62例(致死率:72%)となったとWHOに報告した。
28	エボラ出血熱	WHO GAR 1 Jul 2014	2014年7月2～3日に「エボラウイルスアウトブレイクへの最善の対応」を議論するための11ヶ国の保健当局の緊急閣僚会議が開催予定であるとの報告。また、西アフリカにおけるエボラ出血熱の患者累計数は2014年6月30日までに、死亡者467例を含む759例となった。
29	エボラ出血熱	WHO 2014年8月20日付	2014年8月17日～18日、ギニア、リベリア、ナイジェリア、シエラレオネにおいてエボラウイルス疾患(EVD)の新規症例計221例(検査確定例、可能性例、疑い例)および死亡例106例が報告された。これら4カ国における2014年8月18日時点でのEVDの累計は死亡1,350例を含む2,473例(確定例1,460例、可能性例694例、疑い例319例)である。
30	エボラ出血熱	WHO GAR 27 Aug 2014	2014年8月、コンゴ民主共和国において、エボラ出血熱(EVD)が確認された。この時点でナイジェリアを含むEVD感染国は、5ヶ国となった。
31	エボラ出血熱	WHO GAR 28 Aug 2014	エボラウイルス(EVD)の感染国の4カ国(ギニア、リベリア、ナイジェリア、シエラレオネ)の保健省により報告された進行中のEVDのアウトブレイクにおける可能性例及び確定例の合計は3,069例(死亡1,552例)である。本アウトブレイクは引き続き加速しており、過去21日以内に総症例数の40%以上が発生した。大半の症例が少数の地域のみ集中している。全体的な症例死亡率は52%であった。
32	エボラ出血熱	WHO GAR 29 Aug 2014	2014年8月29日までの西アフリカにおけるエボラウイルス疾患(EVD)の確定症例、可能性例、疑い例の合計数は、3,052例であり、うち死亡例は1,546例であった。
33	エボラ出血熱	WHO ROADMAP UPDATE 26 Sep 2014	ギニア、リベリア、シエラレオネの各保健省から報告された2014年9月23日付けでのエボラ出血熱の流行状況は、診断例は6,553症例(可能性の高い症例、確定症例、疑い症例を含む)と死亡例3,083症例であった。ナイジェリアとセネガルでは、広範囲に及ぶ深刻な感染流行国から入国してきた症例が報告されており、21例の感染例と8例の死亡例であった。
34	エボラ出血熱	CDC Press Release Sep. 30, 2014	米国における初のエボラ出血熱(EVD)の報告。CDCは、2014年9月30日、リベリアに渡航しテキサス州ダラスに帰国した男性が臨床検査により、米国で初のEVDの症例であると確定した。患者は、西アフリカを出発したときには症状がなく、9月20日に米国に到着し4日後に症状を発現した。
35	エボラ出血熱	WHO GAR 1 Oct 2014	米国における初のエボラ出血熱(EVD)の報告。CDCは、2014年9月30日、リベリアに渡航しテキサス州ダラスに帰国した男性が臨床検査により、米国で初のEVDの症例であると確定した。患者は、西アフリカを出発したときには症状がなく、9月20日に米国に到着し4日後に症状を発現した。
36	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20140524.2496690	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。2014年4月及び5月、Pakistan Institute of Medical Sciencesにおいて、CCHFとみられる患者3例が死亡した。直近の1例は、アフガニスタン国籍の男性で、検査でCCHF陽性と判定され、2014年5月21日に死亡した。
37	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20140526.2498024	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。症例1: Balochistan provinceにおいて、渡航歴のない羊飼いの男性が、直腸及び口からの出血を伴う高熱を発症し、意識不明となった。血液サンプルがCCHFに陽性であることが確認され、2014年5月9日、腎不全を発症し死亡した。症例2: Khyber Pakhtunkhwa provinceにおいて、農場に勤務する男性が発熱、筋痛症、粘膜出血および低血圧を呈し、入院した。血液サンプルがCCHFに陽性であることが確認され、2014年5月14日、死亡した。
38	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20140528.250433	ロシアにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。ロシアのStavropol regionにおいて、ダニ咬傷をうけた3例でCCHFが確認された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
39	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20140705.258948	ロシアにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CHFF)の報告。Volgograd regionにおいてCHFF6例が報告された。調査の結果、患者全員が干草作り、もしくは動物の世話をしていた際に感染した。過去14年間でこの地域においてCHFF症例は115例発生し、そのうち10例が死亡していた。DagestanにおいてCHFF2例が報告された。Rostovにおいてダニの咬傷によりCCHF感染し死亡した症例が2例報告された。
40	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20140712.2605464	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。2014年7月11日、Hayatabad Medical Complexにおいて8例目のCCHFによる死亡が発生した。2014年4～7月、医療機関のスタッフ1例を含む8例が死亡した。
41	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20140716.2613519	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。2014年7月13日の地元メディア報告によると、2014年7月11日CCHF患者3例がHataya Medical Complexへ運ばれ、翌日1例が死亡した。
42	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20140722.2628425	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱の報告。2014年7月21日、Islamabad National Institute of Healthは3例のうち1例が検査で本ウイルスに対し陽性であることを確認した。残り2例については検査の結果待ちである。
43	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20140807.2669321	カザフスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。2014年7月15日にダニの刺咬を受けた男児が7月21日に医療機関を訪れ、検査でCCHFと診断された。2014年以降、この地域における4例目のCCHFの確定例であった。
44	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail 20140817.2698791	パキスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。パキスタン Balochi,Zhob distinctの農業従事者2例がCCHFに罹患したのちに死亡した。Meena Bazaar近くのKilli Bump Villageにおいて、女性1例を含む少なくとも4例が本ウイルスに感染した。
45	コンゴ・クリミア出血熱	Trop Doct. 44(2014)86-88	トルコにおけるコンゴ・クリミア出血熱(CCHF)の報告。トルコのチョルムにおいて、2008～2012年の5年間で救急科に入院したダニ刺咬患者21,680例について、レトロスペクティブに解析した結果、21,680例中970例の血液サンプルについてCCHFウイルスのRT-PCR検査が実施され、560例が陽性であった。そのうち38例(6.78%)が死亡例であった。
46	ハンタウイルス感染	Emerg Infect Dis. 20(2014)386-393	米国におけるハンタウイルス感染の報告。2012年夏、カリフォルニア州ヨセミテ国立公園に滞在した観光客において、8例のハンタウイルス肺炎候群が発現し、これらのうち、3例の死亡が確認された。
47	風疹	臨床とウイルス. 42(2014)52-55	大阪府における風疹の報告。大阪府内において、風疹患者数は2011年から徐々に増加し始め、2013年には患者数が3,000例にも及ぶ大流行が見られている。患者の大部分は全国的な傾向と同様に20～30歳代の男性で風疹ワクチン未接種世代である。府内では風疹のワクチン接種に対する助成が始まり、感染拡大阻止のための取り組みが行われている。
48	狂犬病	ProMED-mail 20140522.2491932	ベトナムにおける狂犬病の報告。2014年、ベトナムのYen Bai provinceにおいて約1,900例の患者が狂犬病に感染し、3例がイヌの咬傷を受け死亡した。地方当局によると、日々、新たな狂犬病感染が5～6例報告されている。
49	チクングニヤウイルス感染	ABC NewsLetter, July 25, 2014	米国本土における初のチクングニヤ感染の報告。CDCによると2014年7月17日、フロリダ州マイアミ・デイド郡とパームビーチ郡から1症例ずつ最近の国外渡航歴のない患者におけるチクングニヤ感染が報告された。
50	チクングニヤウイルス感染	www.cdc.gov/media/releases/2014/p0717-chikungunya.html/2014/07/17	米国における初のチクングニヤウイルスの土着感染例の報告。患者は最近米国外に旅行しておらず、米国本土の蚊がウイルスを媒介する可能性が示唆された。CDCはフロリダ当局と共に感染経路の調査を実施すると共に、今後、追加のチクングニヤウイルス土着感染例について監視する。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
51	チクングニヤウイルス感染	transfusion. 54(2014)1945-1952	タイにおけるチクングニヤ熱感染の報告。タイのソクラー県における2009年の9,000例を超えるチクングニヤ熱流行中の輸血を介したチクングニヤ熱感染リスクを推定したところ、26,722供血血液中11~15供血血液が輸血リスクに関連すると推測された。
52	デング熱	ProMED-mail 20140812.2680784	ミャンマーにおけるデング熱の報告。2014年1~7月のデング熱症例は、入院が1,200例以上(大半が小児)、死亡が12例であった。
53	デング熱	ProMED-mail 20140821.2710360	ベトナムにおけるデング熱の報告。Hospital for Tropical Diseasesに入院しているデング熱症例が2014年6月の817例から7月の1,042例に増加した。
55	デング熱	厚生労働省 2014年8月27日	埼玉県在住の10代の女性におけるデング熱の報告。患者は東京都内の学校に在学中で、海外渡航歴がなく、8/20に突然の高熱により入院し、8/26に患者血液検体について国立感染症研究所で検査されたところ、デング熱陽性の結果が得られた。
54	デング熱	ProMED-mail 20140828.2731079	日本におけるデング熱の報告。2014年8月、厚生労働省より3例のデング熱が報告された。3例とも海外渡航歴はなく、東京都の同じ学校に通っており、最近渋谷区の代々木公園を訪れ、蚊により感染したと考えられている。
56	灰白髄炎	ProMED-mail 20140622.2558067	2014年及び2013年の国別の野生型ポリオウイルス1型(WPV1)及び循環型ワクチン由来ポリオウイルス2型(cVDPV2)の報告。アフガニスタンにおいて2014年はWPV1感染が6例、2013年はWPV1感染が14例、cVDPV2感染が3例であった。パキスタンにおいて、2014年はWPV1感染が82例、cVDPV2感染が10例、2013年はWPV1感染が93例であった。
57	口蹄疫	OIE 21 May 2014	ロシアにおける口蹄疫の報告。2014年5月17日、ロシアのPrimorskyにおいてブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例13,695匹、症例11,518匹、死亡例4,196匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
58	口蹄疫	OIE 28 May 2014	ロシアにおける口蹄疫の報告。2014年5月25日、ロシアのPrimorskyにおいてブタの口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例169匹、症例169匹、死亡例8匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
59	口蹄疫	OIE 30 May 2014	ロシアにおける口蹄疫の報告。2014年5月28日、ロシアのPrimorskyにおいて3件のブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例6,120匹、症例3,153匹、死亡例7匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
60	口蹄疫	OIE 9 Jun 2014	ロシアにおける口蹄疫の報告。2014年5月28日、ロシアのPrimorskyにおいて2件のブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例61匹、症例34匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
61	口蹄疫	OIE 4 Jul 2014	中国における口蹄疫の報告。2014年6月23日、中国においてブタの口蹄疫(血清型A)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例9匹、症例3匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
62	口蹄疫	OIE 24 Jul 2014	韓国における口蹄疫の報告。2014年7月23日、韓国においてブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて疑い例1,500匹、症例3匹で、感染源は不明もしくは結論に到達していない。
63	口蹄疫	ProMED-mail 20140728.2641218	韓国における口蹄疫の報告。2014年7月28日、韓国において2件目のブタの口蹄疫(血清型O)のアウトブレイクが確認された。3年間ではじめての口蹄疫のアウトブレイクがUiseong付近の1カ所のブタ農場において確認された4日後に、新たなアウトブレイクがGoryeongの1ヶ所のブタ農場において確認された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
64	口蹄疫	ProMED-mail 20140809.2675093	韓国における口蹄疫の報告。2014年8月7日、韓国のSouth Gyeongsang, Hapcheon Countryのブタ農場において口蹄疫が確認された。ブタ121匹が処分され、当局は感染した本農場が217以上の農場と直接的または間接的に接触していることから、感染拡大を懸念している。
65	口蹄疫	ProMED-mail 20140505.2450260	北朝鮮における口蹄疫の報告。2014年2月18日、北朝鮮は、平壤の17ヶ所の豚農場における深刻な口蹄疫のアウトブレイク4件を報告した。ブタ数百匹が死亡し、数千例が感染した。
66	パルボウイルス感染	日本輸血細胞治療学会誌. 60(2014)561-564	日本における輸血用血液製剤によるヒトパルボウイルスB19(以下、B19)感染に関する報告。日本赤十字社血液センターでは、1997年9月より献血血液のB19抗原スクリーニング検査をRHA法により開始した。2008年から検査方法をCLEIA法に変更して検出感度の向上を図ったことにより、輸血後副作用調査によるB19感染疑い例の副作用発生頻度は概ね1回/1年から1回/4~5年に改善した。
67	オルソボックスウイルス感染	GID RAP, 2014; May 1	グルジアにおける新種のオルソボックスウイルスの報告。米国CDCによると、2013年夏に天然痘ワクチン接種歴のない2例の牛飼いが、病気のウシとの接触後に新種のオルソボックスウイルス科のウイルスに感染した。CDCがこれらの牛飼いとウシと接触のあった55例に聞き取り調査を行ったところ、天然痘ワクチンの定期接種が中止された1980年以降に生まれた9例のうち5例にオルソボックスウイルスの抗体が確認された。さらに、グルジア国内の他の地域でも、2010年に炭疽感染の疑いとされていた別の1例における感染が確認された。患者らは感染から回復している。CDCは同ウイルスによる感染が新興する可能性があるため、動物との接触後に生じた皮膚病変のある患者では感染を考慮すべきとしている。
68	アルボウイルス感染	第88回日本感染症学会学術講演会、第62回日本化学療法学会総会合同学会 (2014.6.18-20) 269	日本における初の輸入Zika熱症例の報告。12/2~12/7に仏領ポリネシアのボラボラ島に滞在した27歳の男性において、37.2°Cの発熱、顔面・体幹・四肢の斑状発疹が発現した。国立感染症研究所におけるリアルタイムPCRにてZikaウイルスRNAが検出され、日本における輸入Zika熱の初めての例と判断された。
69	アルボウイルス感染	IASR. 35(2014)45-46	日本における初の輸入Zika熱症例の報告。12/2~12/7に仏領ポリネシアのボラボラ島に滞在した27歳の男性において、37.2°Cの発熱、顔面・体幹・四肢の斑状発疹が発現した。国立感染症研究所におけるリアルタイムPCRにてZikaウイルスRNAが検出され、日本における輸入Zika熱の初めての例と判断された。
70	アルファウイルス感染	Emerg Infect Dis. 20(2014)1255-1257	仏領ギアナからドイツに輸入されたマヤロウイルスの報告。2013年8月、ギアナへの2.5週間の滞在から帰国したドイツ人女性が、発熱、悪寒、頭痛、疲労感、手指関節の腫れと両足の痛みをきたして受診したところ、血清からマヤロウイルスが検出された。
71	コロナウイルス感染	mBio. 5(2014)	サウジアラビアにおける中東呼吸器症候群(MERS)の報告。2013年にサウジアラビアにおいて、MERS感染により死亡した男性患者、彼が飼育していたラクダ、ラクダの飼育小屋の大気サンプルから、MERSコロナウイルス(MERS-CoV)が検出され、それらの遺伝子配列が一致していること確認された。ラクダはMERS-CoVの感染源になりうると考えられ、閉鎖された空間内でヒトに伝播する可能性があることが示唆された。
72	コロナウイルス感染	NHS choices July 24 2014	サウジアラビアにおける中東呼吸器症候群(MERS)の報告。2013年にサウジアラビアにおいて、MERS感染により死亡した男性患者、彼が飼育していたラクダ、ラクダの飼育小屋の大気サンプルから、MERSコロナウイルス(MERS-CoV)が検出され、それらの遺伝子配列が一致していること確認された。ラクダはMERS-CoVの感染源になりうると考えられ、閉鎖された空間内でヒトに伝播する可能性があることが示唆された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
73	コロナウイルス感染	N Engl J Med. 370(2014)2499-2505	サウジアラビアにおける中東呼吸器症候群(MERS)の報告。サウジアラビア人男性が鼻漏のあるラクダに接触した後、MERSにより死亡した。患者及びラクダの鼻腔スワブから検出されたMERSコロナウイルス(MERS-CoV)分離株のRNA配列が一致したことから、ラクダからヒトへのMERS-CoV伝播が示唆された。
74	口内炎	OIE 28 May. 2014	米国における水疱性口内炎の報告。Weekly Disease Informationによると、米国テキサス州、コロラド州の農場において、ウシの水疱性口内炎ウイルス(血清型New Jersey)感染が報告された。
75	口内炎	OIE 5 Aug 2014	米国における水疱性口内炎ウイルスの報告。Texas州およびコロラド州の農場において、ブタの水疱性口内炎ウイルス(血清型New Jersey)感染疑いの症例が確認された。
76	流行性多発性関節炎	感染症学雑誌. 2(2014)155-159	オーストラリア渡航中に発症したロスリバーウイルス感染の報告。2013年1~3月オーストラリアに滞在中の患者において、左足背の疼痛と腫脹、右膝の疼痛、関節稼動域制限が出現した。5月中旬、日本に帰国した後、国立感染症研究所で検査した結果、ロスリバーウイルスIgG陽性、IgM陽性であり、日本における初のロスリバーウイルス急性感染と確定診断された。
77	ウイルス感染	MMWR. 63(2014)270-271	ハートランドウイルスは、2009年に発熱、白血球減少症、血小板減少症のため入院したミズーリの農家から分離された。2012~2013年に6例のハートランドウイルス病が新たに同定された。このうち4例は入院し、1例は併存疾患により死亡した。全例が毎日数時間屋外で過ごし、6例中5例は発症前14日以内にダニに咬まれていた。
78	ウイルス感染	ProMED-mail 20140602.2513295	米国におけるハートランドウイルス感染の報告。オクラホマ州において初めてのハートランドウイルス感染が報告された。この症例は10例目のヒトのハートランドウイルス感染で、2例目の死亡症例であった。
79	ウイルス感染	ProMED-Mail 20140502.2445865	米国ジョージア州において、家畜世話人の男性2例から、天然痘ウイルスに類似した新たなウイルスが発見された。患者2例は疾患のウシと接触した後、手部と腕部の疼痛を伴う水疱、発熱、リンパ節腫脹、全身の脱力を発現した。このウイルスはまだ命名されておらず、これまでのところヒト-ヒト伝播のエビデンスはみつかっていない。罹患者数や致死性、動物への感染の可能性については不明である。
80	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion. 54(2014)990-995	プリオン除去フィルターの評価。人全血および赤血球に263Kスクレイピー感染ハムスター脳ホモジネートの遠心分離後の上清を添加し白血球を除去後、プリオン除去フィルターを通過させ、バイオアッセイにより感染性を測定した。プリオン除去フィルターによる感染性除去能は2logオーダーであった。また、263Kスクレイピー感染ハムスターの赤血球のプリオン除去フィルター通過後の感染性は検出されなかった。著者らは、プリオン除去フィルターの使用は、輸血伝播vCJDのリスク低減に役立つ可能性があると考えている。
81	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Hosp Infect. 88(2014)22-27	英国における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の報告。英国におけるvCJD77例は医原性伝播による可能性が高く、64例がヒト由来成長ホルモン、8例が硬膜移植片、4例が輸血、1例が血漿製品による可能性が高いと考えられた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
82	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	N Engl J Med. Aug 7, 2014	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) 患者の尿中のプリオン蛋白 (PrP(Sc)) を、protein misfolding cyclic amplification (PMCA) 法により調査した。PrP(Sc) は、vCJD 患者の尿検体 14 のうち 13 検体から検出され、他の神経疾患を有する患者や健康人から採取した 224 の尿検体のいずれからも検出されなかった。
83	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 25 Feb 2014	ドイツにおける異型クロイツフェルトヤコブ病に関する報告。ドイツの BSE 監視システムによって、1 頭の BSE 例が特定された。このウシは 11 歳 4 か月で殺処分されており、臨床症状は認められなかったが、検査の結果、H 型 BSE 陽性であることが判明した。このウシは食肉流通される前に発見されたため、ヒトの健康に影響はない。疫学調査が実施された結果、このウシの子孫 8 頭が特定され、うち 3 頭は既に殺処分され、1 頭は死亡、4 頭は他の加盟国と取引された。
84	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 26 Jun 2014	ルーマニアにおける異型クロイツフェルトヤコブ病に関する報告。2014 年 5 月 6 日、ルーマニア・キンテニの村 (Deusu) の屠殺場において非定型 BSE (L-BSE) の牛 1 頭が確認され、検査が行われた。6 月 9 日ルーマニア国立研究所 (institute for diagnosis and animal health) でのウエスタンブロット法にて、L-BSE 陽性が確認され、6 月 12 日英国動物衛生獣医学研究所での免疫組織化学的検査およびウエスタンブロット法により L-BSE 陽性が確定した。本疾患の発生源は未確定であり、疫学調査が継続中である。
85	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 8 May 2014	2014 年 4 月 14 日ブラジルの BSE サーベイランスシステムで 12 歳の雄ウシからプリオンマーカールが検出され、殺処分された。疫学的調査で、当該個体と同じ出生コホートの 49 頭のウシが見つかり、これらも殺処分された。これらのウシから神経組織サンプルが採取され、国立研究所で BSE に関して検査した結果、全て陰性であることが判明した。
86	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathog. 10(2014) e1004202	血液中の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) / 牛海綿状脳症 (BSE) プリオンの発症前検出法に関する検討。Protein Misfolding Cyclic Amplification (PMCA) 法を用いた vCJD / BSE プリオンの in vitro での増幅について検討した結果、vCJD / BSE プリオンの由来 (種) にかかわらず、ヒツジ Q171PrP 基質が増幅効率が高いことが示された。
87	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20140312.2329623	ギリシアにおける BSE の報告。オランダからギリシアへ輸入された乳牛 2 頭 (死亡時推定 6 歳) において BSE が確認された。ギリシアでは約 10 年ぶりの BSE 発生であった。
88	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20140604.2519285	米国における異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) に関する報告。米国テキサス州において vCJD 確定例 1 例が報告された。病理解剖の脳検体が vCJD 検査にて陽性反応を示したことから、vCJD と確定された。本症例は米国における 4 例目の報告であり、過去 3 例はいずれも米国外で感染したと考えられており、本症例についても欧州、中東などへの渡航歴を有することから、米国外で感染した可能性が考えられる。
89	ブドウ球菌感染	Outbreak News Today Aug. 25, 2014	デンマークにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の報告。デンマークにおいて、ブタ由来のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (CC398 型 MRSA) の感染症例が増加している。7 月に認められた 105 例に続いて何千例もの報告がきており、月当たりの数としては過去最高となった。4 例の死亡も認められている。
90	レンサ球菌感染	Centers for Disease Control and Prevention	Streptococcus suis は、ヒトとブタとの間で感染が拡大する新興人獣共通感染症である。ブタからヒトへの感染は、ブタの屠殺時や加熱が不十分な豚肉製品を食べることによって起こる。ヒトに主な臨床症状は、敗血症、関節炎、心内膜炎、眼内炎、髄膜炎である。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
91	レンサ球菌感染	J Clin Microbiol. 52(2014)2254-2258	北アメリカのブタ農家において、Streptococcus suis(S.suis)荚膜欠損性血清型5株による関節形成術感染およびレンサ球菌毒素性ショック様症候群の最初の症例が報告された。S.suisはヒトにおいて髄膜炎および敗血症を引き起こす可能性のある新興ブタ関連人獣共通感染症である。
92	炭疽	ProMED-mail 20140703.2585812	米国における炭疽の報告。Idaho Statesmen, Associated Pressによると、2014年初めてノースダコタ州 Barnes Country のウシ1例において炭疽が確認された。
93	結核	Health Protection Report 28 March 2014	英国におけるMycobacteria bovis (ウシ型結核菌)感染の報告。別々の家で飼われているネコ9匹におけるMycobacteria bovis感染が発生し、感染したネコの接触者24例についてスクリーニングを実施した結果、2例がMycobacteria bovisに起因する活動性結核と診断された。この2例の感染源はおそらくネコであると考えられている。ネコからヒトへの結核感染は過去に報告されていない。
94	結核	ProMED-mail 20140328.2364314	インドにおける結核の報告。ムンバイの保健当局によると、2013年、結核症例は4万例報告され、そのうち4,000例以上が再発症例であった。ここ数年、再発症例数は一定のままである。2013年、結核症例の10%以上の4,467例が再治療を受けた。過去3年間、多剤耐性および広範囲薬剤耐性結核症例数は著しく増加している。
95	結核	ProMED-mail 20140413.2400796	米国におけるウシ結核の報告。Huron Daily Tribuneによると、2014年4月4日、米国ミシガン州Huron Countryにおいてウシ1頭がウシ結核と診断された。
96	ウシ結核	Epidemiol Infect. 2014 Apr. 1-10	ニュージーランドにおけるウシ結核菌感染に関する報告。ニュージーランドにおいて2006年6月1日から2010年11月1日にウシ結核菌に感染したウシおよび鹿の群におけるウシ結核菌感染再発のリスクファクターを特定するために、後ろ向きコホート研究が行われた。Cox比例ハザードモデルにより、感染再発と以下の項目に正の相関を認めた。(1)観察期間以前のウシ結核菌感染回数が多い群(2)観察期間中の感染において、2頭以上の感染があった群(3)感染除去確認試験時に1頭以上のtest positiveな個体があった群
97	ウシ結核	ProMED-mail 21040728.2641321	フランスにおけるウシ結核の報告。フランスのSeine-Marrimeの飼育農場において、ウシ結核の新規症例1例が検出され、群全体(ウシ138頭)が屠殺される予定である。
98	ハンセン病	ProMED-mail 20140804.2656984	インドにおけるハンセン病の報告。2009-2010年以降、Maharashtraにおいて新規ハンセン病症例数の増加が示されている。2009-2010年に検出された新規症例数は15,701例、2010-2011年は15,489例、2011-2012年は、17,892例、2012-2013年は18,715例であった。2013-2014年は16,400例に減少した。2014年4月新規症例1,327例が検出された。
99	ペスト	ProMED-mail 20131220.2126421	ペルーにおけるペストの報告。ペルーのLa Libertad Regionにおける肺ペストの確定症例数は5例となり、その内訳は患者へ挿管中に感染した医師、Campina Cariagaの自宅でノミに噛まれた小児、Campina Cariagaの夫婦、敗血症性ペストで死亡した症例であった。これらに加え、疑い例3例の評価が行われている。
100	肺ペスト	ProMED-mail 20140718.2620341	中国における肺ペストの報告。2014年7月16日、Gansu Province北西部において男性1例(38歳)が肺ペストにより死亡した。本症例は家畜の遊牧の際に死亡したマーモット1例との濃厚な接触の後、体調が悪くなった。
101	コレラ	ProMED-mail 20140709.2595790	パキスタン、ネパールにおけるコレラの報告。パキスタンにおいては、ラマダ月以降、コレラ及び下痢を訴え少なくとも900例がPakistan Institute of Medical Sciences hospitalを訪れた。小児600例以上が脱水症及び胃疾患により入院した。ネパールにおいては、Rautahatでコレラが拡大しており、2例が死亡し、1500例以上の感染が確認された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
102	野兔病	ProMED-mail 20140705.2589884	米国における野兔病の報告。コロラド州ラリマーのウサギにおいて、野兔病が発生した。ラリマーの保健省および環境省は周辺住民への警告を実施した。
103	野兔病	ProMED-mail 20140711.2601188	米国における野兔病の報告。2014年7月10日、ニューメキシコ州保健省は、ベルナリージョ出身の65歳の女性が野兔病であることが確認されたと公表した。患者は入院したが、回復し退院した。
104	野兔病	ProMED-mail 20140813.2684686	米国における野兔病の報告。イリノイ州シャンペーンの衛生局は、患者1例が野兔病により死亡したことを確認した。また、コロラド州の衛生局は男性患者が野兔病により入院したことを確認した。
105	野兔病	ProMED-mail 20140815.2684689	スペインにおける野兔病の報告。スペイン、カスティーリャ・レオン州パレンシアにおいて、ザリガニに接触した患者が野兔病に感染した。ザリガニがハタネズミ、ウサギ、野兔の死骸に触れた水中の細菌の媒介生物として働き、ヒトに感染する可能性が示唆された。
106	梅毒	IASR. 35(2014)79-80	東京都における2007～2013年の梅毒の発生状況。2013年の報告数は417人であり、男女比は7:1であった。2010年と2013年を比較すると、男性では2.4倍、女性では2.9倍に増加した。感染経路では、男性では2013年に346例(94.8%)が性的接触と報告されており、うち同性間接触が71.7%、異性間接触が17.3%であった。男性の同性間性的接触による感染が増加しており、2013年は2007年の11.3倍であった。女性は40例(76.9%)が性的接触と報告され、女性の異性間性的接触では2013年は2010年の3.7倍であった。2013年の総報告数は過去5年平均+2SDの値を大きくこえており、アウトブレイクと捉えることができるとの報告である。
107	梅毒	第88回日本感染症学会学術講演会、第62回日本化学療法学会総会合同学会(2014.6.18～20)	日本における近年の梅毒発症動向に関する報告。感染症発症動向調査で2009～2013年に梅毒と報告された症例を記述的に分析した結果、2013年の報告総数は、1,176例で2009年より1.70倍増加していた。感染経路が判明した1,011例のうち1,004例が性的接触によるものであり、その内訳は、男性の10～20代で同性間性的接触感染が、2009年58例に対し2013年118例と2.03倍に増加した。また、30～40代も85例から258例(3.04倍)に増加した。異性間性的接触感染は10～20代で49例から83例(1.69倍)の増加が認められた。女性は10～20代の異性間性的接触感染症が2009年56例に対し2013年は73例(1.30倍)であった。
108	ジフテリア	ProMED-mail 20140813.2686501	インドにおけるジフテリアの報告。2014年8月第一週目に、インドHyderabadにおいて、少なくとも15例のジフテリア症例が報告された。
109	細菌感染	BioMed Central 28 Apr 2014	中国におけるローソニア・イントラセルラリス感染の報告。ローソニア・イントラセルラリスは主に、ブタ小腸および大腸で増殖し、離乳後のブタ増殖性腸疾患の原因となる。中国において、ブタのローソニア・イントラセルラリスの保有率を調査したところ、1,060血清サンプル中77%であった。
110	神経クリプトコッカス症	ProMED-mail 20140503.2445206	米国北東部における初めてのCryptococcus gattii(C.gattii)感染の報告。米国では太平洋岸北西部に限られていたと考えられていたC.gattii症例が、ニューヨーク州から出たことのない72歳の男性に発現した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
111	アメリカ・トリパノソーマ症	PLoS One. 9(2014)e95398	低温保存後のTrypanosoma cruzi(T.cruzi)の生存性に関する報告。T.cruziの室温(22~25°C)、低温(1~10°C)、冷凍下(-80°C)での生存性について調査した結果、ヒト血液にスパイクしたT.cruziは室温下では24時間後にも感染性を保っていた。低温下で感染細胞を48時間保存後の原虫の生存率に変化はなく、14日後には運動性を有する原虫はみられなくなり、1ヶ月後には生存原虫はみとめられなかった。冷凍下では、凍結防止剤がない状態で感染細胞を1年間保存後に、生存原虫がみられた。生存原虫の数は凍結防止剤を用いた場合のほうが用いない場合よりも有意に多かった。T.cruziは冷蔵と冷凍保存の状態でも長期間生存できることから、このような状況で保存されるT.cruzi感染細胞・組織由来製品が感染性を持つことを示唆している。
112	アメリカ・トリパノソーマ症	Transfusion. 54(2014)2092-2097	米国における供血者のシャーガス病既往歴に関する報告。米国において、2000年1月~2011年8月の12年間で約8,800万例の供血者のうち、34例がシャーガス病既往歴の自己申告のため供血を延期し、このうちTrypanosoma.Cruzi(T.Cruzi)感染の可能性が特定された供血者は28例であった。2007年以降の約5年間のT.Cruzi抗体スクリーニングで488例(1/43,600例)の放射性免疫沈降アッセイ陽性供血者を確認し、これらのうちシャーガス病既往歴を自己申告した供血者はいなかった。これらの調査から、著者らは、米国では供血者へのシャーガス病既往歴の問診は意味がないと考えている。
113	アメリカ・トリパノソーマ症	第88回日本感染症学会学術講演会、第62回日本化学療法学会総会合同学会 (2014.6.18-20) 375	シャーガス病の流行地域(中南米21ヶ国)から来日し25年定住している患者において、献血時の疫学調査でシャーガス病の原因であるTripanosoma cruzii(T.Cruzi)抗体陽性が判明した。心電図にて2度房室ブロックおよび心臓超音波検査で左室壁運動の低下を認めた。また、全血においてT.cruziのDNA陽性も確認され、慢性期再燃時の寄生虫血症が示唆された。
114	マラリア	ProMED-mail 20140610.2530315	エジプトにおけるマラリアの報告。エジプトのAswan governorateにあるEdfu's fever hospitalにおいて、2例のマラリア症例が報告された。エジプトでは2014年5月以降15例のマラリア症例が報告されており、エジプト南部がマラリアの中心地であることが示唆されている。
115	マラリア	ProMED-mail 20140809.2675151	インドにおけるマラリアの報告。2014年1~7月、Mangaloreにおけるマラリアの確定症例4,000例が報告された。2014年7月だけで1,500例が報告されている。
116	マラリア	Vox Sang. 107(2013)123-131	英国におけるマラリア感染の報告。英国において2010年4月~2013年8月まで合計138,782供血血液にマラリアリスクが特定された。このうち、マラリアリスク地域に居住歴のある14例にマラリアDNAが確認され、最長7年間原虫血症が持続していた。
117	マラリア	www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM080784.pdf/2014/08/01	輸血関連マラリア感染症のリスク低減のための問診票、供血延期措置、リエントリー、製品管理についてのFDAによる血液事業者へのガイダンス。主な内容は以下のとおり。 ・マラリア感染症既往を有している場合は、3年の供血延期とすることを推奨する。 ・マラリア流行国での居住後3年間は供血者を供血延期とする。 ・非流行地域居住者でマラリア流行地域への渡航歴及び通過歴のある供血者については、出国後1年間の供血延期とする。
118	トキソプラズマ症	J Infect Dev Ctries. 8(2014)543-547	イランにおけるトキソプラズマ症の報告。イラン、ファールス州の血液センターの1,480例の健常供血者の検体を対象にToxoplasma gondii(T.gondii)の抗体検査を行ったところ、286例からT.gondiiの抗体が検出された。無症候性供血者が受血者にトキソプラズマ症を伝播する可能性が示唆された。
119	肉胞子虫感染	Euro Surveill. 19(2014)pii20816	2014年5月、マレーシアのティオマン島からドイツに帰国した6人が肉胞子虫症による発熱を伴う筋炎を発症した。患者の旅行歴や島での滞在先、推定潜伏期間、臨床像及び検査結果は、2011年と2012年にティオマン島から欧州各国に帰国した旅行者における肉胞子虫症関連の筋炎症例と一致した。原虫種、感染源、動物宿主は現在調査中である。